

富士フイルムホールディングス株式会社
2023年3月期第1四半期 決算説明会
主な質疑応答

Q: 第1四半期の営業利益について、対計画の状況を教えてください。

A: 社内計画に対しては、20~30億円の計画過達。為替影響はポジティブだったが、バイオ CDMO で新型コロナワクチン原薬製造の未稼働補償が第2四半期以降の精算となったことや、LSソリューションの培地で新型コロナワクチン関連の前年度特需の反動が想定よりも大きかったこと、各セグメントにおける中国ロックダウンの影響等がマイナス要因となった。

Q: メディカルシステム事業の足元の状況を教えてください。

A: 内視鏡、医療 IT、体外診断(IVD)等の分野が好調である。内視鏡は、中国でロックダウンの影響を受けるも、その他の全ての地域で販売を伸ばし、第1四半期の売上高は前年比29%増(為替除20%増)と大幅な増収となった。また、医療 IT が順調に販売を伸ばしていることに加え、体外診断(IVD)では、新型コロナ用簡易検査キット等の販売が堅調に推移。2021年3月にグループに加わった富士フイルムヘルスケア(日立製作所の画像診断関連事業を承継)との統合効果についても、全身用 X 線 CT 診断装置「Supria」のクロスセルにより販売を伸ばす等、PMI が順調に進んでいる。

Q: 外部環境の変化や景気減速による影響が顕在化する事業はあるか。

A: 国内での新型コロナ影響により、ビジネスイノベーションではプリントボリュームが想定より戻らず、第1四半期の業績回復が緩やかだったが、消耗品の輸出売上は増加しており、年内は需要が継続すると見ている。また、半導体市場がメモリー等で需給調整局面に入るとも言われている中で、当社はパワー半導体向けを含め、幅広い分野での材料を揃え、リスク分散を行っているため、今年度から来年度にかけて十分に売上を伸ばせると確信している。

以上